

# 受け継ぐ わざを

先輩から後輩へ  
次代に紡ぐ  
溶接の技と誇り

株式会社宮富士工業(石巻市)

生産部課長 阿部 栄治さん Eiji Abe

「高度な技術を学びたい」  
強い思いで入社した1年前  
巨大装置の溶接も任せられ  
充実の日々を送る

約1年前より同社に勤める浜野愁平さんは、現在23歳。石巻市で生まれ育ち、高校卒業後は同市内の製造企業に就職するも「より高度な溶接技術を学びたい」との思いから、中途採用で入社に至った。「自分が向き合った分だけ上達できるのが、この仕事のやりがい」と答える浜野さん。経験者のため仕事の覚えは早く、基本級ではあるものの、半自動溶接、アーク溶接、ステンレス鋼溶接の3つの技能者資格を取得済みだ。また、社内における浜野さんへの期待も大きく、今年の夏



△2012年には「現代の名工」にも選出された後藤社長。「浜野くんには1級鉄工技能士をぜひ目指してほしい」とエールを送る

には、米ぬか油の抽出機として使用される機械の溶接をメインで担当。約2カ月かけ、全長12メートル、高さ4メートル、総重量25トンの巨大装置を組み立てた。「夏場だったので、内部は熱がこもってサウナのような状態。体重も痩せましたね。でも溶接自体は好きなので、全然苦じゃなかったです」



浜野 愁平さん Shuhei Hamano

溶接のパターンは多種多様  
先輩を手本にしなが  
あらゆる技術の習得を目指す

そんな後輩を見て「常に自分なりに工夫し、考えながら仕事ができている。たしかに自分もだ」と頷を緩めるのは、先輩上司の阿部栄治さんだ。例えば、ひずみをなくすために角度を逆算して溶接するなど、先を読んで作業できるのが浜野さんの特長。その働きぶりに「教えたことだけでなく、一つ上のことができていて頼もしい」と阿部さんは太鼓判を押す。ただし、扱った金属の種類や厚さ、組み合わせの向きなど、溶接にもさまざまな

県内外から高評価を得る  
設立40年目の町工場  
社員の資格取得を推進し  
一人前の技術者を輩出

ものづくりの世界において、切っても切り離すことのできない「溶接」。この技術のスペシャリストをそろえるのが、石巻市にある株式会社宮富士工業だ。タンクやダクトなどのプラント設備の製造を主に行っており、1981年の創業以来、たしかに技術力は県内外から高い評価を獲得。40年にわたり、宮城の製造業を支える町工場である。社は「社員一人ひとりが技術者として一級品であれ」「溶接一筋」を謳う同社では、技術力を第三者に評価してもらったための指標として、社員に対して溶接免許の資格取得を推進している。現在、生産部門に勤める12人全員が有

△「溶接一筋」を謳う同社。金属の扱いは手慣れたものだ



資格者で、合格率20%と言われる1級鉄工技能士は6人も在籍。また、溶接技術競技大会にも若手社員を積極的に派遣し、全国大会では過去最高7位という実績を持つ。さらに2012年度には、後藤春雄社長が、卓越した技能者に送られる「現代の名工」にアーク溶接士として認定。今や同社は業界屈指のプラント価値を誇る町工場となっている。



△浜野さんの作業を後ろから見つめる阿部さん。2人の信頼関係は抜群だ

パターンが存在する。今は工場での作業がメインだけど、今後は現場での作業も増えていくはず。場面や状況に応じた溶接ができるようになってほしいね」と背中を叩く阿部さん。その言葉に浜野さんも「阿部さんは自分にとってお手本となる存在。ゆくゆくは自分も周りの手本になれるよう、成長したいです」と目を輝かせる。先輩から後輩へ。三陸の町工場が紡いできた技と誇りは、次代の担い手へとしっかりと引き継がれていく。

株式会社宮富士工業

所在地 〒986-0855 石巻市大街道東2-11-25 □代表取締役社長 後藤春雄 □資本金 1,500万円 □設立 1981年  
従業員数 14人 □事業内容 各種プラント設備の設計・製作・据付および各種配管の設計・施工  
TEL 0225-93-8295 http://www.miyafuji.jp/

同社では配管工事も施工。溶接前には接合部分を研磨して傷を取り除く